

# 平成21年度 海外研修旅行レポート PART II

## 京都市立日吉ヶ丘高等学校 国際コミュニケーション科

### 3月7日(日)

この日私たちは、各ファミリーと一緒に過ごしました。

この地に来て初めての好天だったこともあり、Farmer's Market（毎週日曜日の午前中にココベイ近くの Noosa Football Ground で開かれる）という青空市場にファミリーと共に出かけた人もいました。生ギターの演奏が流れる、いい雰囲気マーケットだったようです。

### 3月8日(月)

昨日の日曜日、ファミリーとの英語だけの一日を頑張ってきた私たち。この日をどう過ごしたかに話の花が咲きました。ビーチへ行った人、沈黙に苦しんだ人、日本食を作った人など、様々でした。

ホームステイを始めて1週間ぐらい経つと、英語が聞き取れるような感じがして、ファミリーと一緒に過ごすこつもだんだんわかって来ました。最後には心に残る日々になることでしょう。

午前の英語レッスンが終わると私たちはランチボックスを抱えたまま「オーストラリア・ズー」へ。スティーブ・アーウィンという、もはや伝説化した人物で知られる動物園です。鳥やワニのショーが行われる「クロコシウム」でまずは昼食。開放感あふれるこの場所でのお弁当は格別でした。引き続き同じ場所で行われたショーを楽しんだ後、コアラだっこの写真撮影。コアラの鋭い爪が痛かったという苦笑いがあちこちで見られました。

この後はグループごとの自由行動。園内を移動するトラムに乗ったら案内の女性が日本語で1分間ぐらいアナウンスをしていたと話題になりました。



**3月9日 (火)**

午前中の英語レッスンの後、私たちは徒歩でヌーサリバーへ。半分の人たちはポイントゥーン・ボートでゆっくりとヌーサリバーを往復。もう半分の人たちは2人乗りのカヤックでマングローブの湿地などへ出かけ、川底を足の裏で体験しました。どちらの人たちも最後には川岸で水の掛け合いなどをして過ごしました。

このころからココベイで響くようになったのは合唱の歌声。ホストファミリーやヌーサ高校向けに歌を披露する本番がだんだん迫ってきました。練習が終わると柵で隔てられた隣の建物から「ブラボー」の声と拍手が聞こえて来て雰囲気盛り上がってきました。



### 3月10日(水)

この日私たちは、お世話になっている方々におみやげ渡しをしました。

ココベイ・リゾートの管理人であるフランクさんとキムさんと犬のバディ、それに英語講師の方々4名が朝の青空ホームルームに勢揃い。国際交流委員の生徒6名がお礼の言葉を



述べ、おみやげを渡しました。渡した物は2年生の先輩方が書道の時間に作成した提灯と掛け軸。作品を寄付してくれた先輩方の写真も手渡して顔の見えるおみやげ渡しとなりました。

午前中の英語レッスンではいよいよ明日となったヌーサ高校訪問用に英語プレゼンテーションの最終確認をしました。

午後は「ミニ・オリンピック」。ココベイから徒歩15分の、野球場程度の広さの芝生公園を貸り切ってグループ対抗のリレーやバレーボールを楽しみました。指導員のLeeさんの教え方が上手で、適度に疲れて笑いの絶えない時間となりました。それにしてもこんな広い芝生公園を貸切にできるなんて、さすがオーストラリアです。

## 3月11日(木)、12日(金)

この2日は両方とも、午前ヌーサ高校、午後英語レッスンの日程で過ごしました。

ヌーサ高校 (Noosa District State High School) は日吉ヶ丘高校の姉妹校で、今回の訪問が8年目。今回の海外研修でも4日間に渡ってこの学校を訪問します。

さて初めて到着した日には国際交流担当の Lisa 先生や日本語授業担当の Kate

先生を紹介していただきました。続いて私たちは日本語授業を受けている人たちの教室へ。去る9月から準備を重ねてきた英語プレゼンテーションの本番です。タイトルは「日本の伝統的な遊び」「清水寺の、恋をかなえる石」など計8つ。ヌーサ高校のみんなは反応がよく、楽しい時間となりました。

また私たちには「バディ」という「友達担当者」が割り当てられていました。休み時間やお昼休みをこの人たちと過ごして友達を増やすこともできました。日本語の手紙を携えて私たちを待っていたバディも結構いて、歓迎してくれていることが分かりました。

午後の英語レッスンではアボリジニのアートを学習するなどして過ごしました。それにしてもヌーサ高校への訪問は緊張、疲労、達成感のある時間で、続く2回も楽しみです。

